

◆茨城大学震災調査団活動スタート◆

茨城大は3月11日の地震の直後から震災の調査を始めました。これまでに全学部とICASの総勢80名を超えるメンバーが調査に関わっています。茨城県における地震の被害状況をはじめ、住民の震災直後の対応、中長期的な対応、さらには今後どうしていけば茨城の魅力的な発展が望めるか、多角的・総合的な観点から調査・研究を進めています。

4月19日(火)には水戸キャンパスにて震災の中間報告会を開催し、200名以上の方々の参加を頂きました。参加者の皆さまには様々な意見・示唆を頂きました。これから報告書の取りまとめを行い、6月1日(水)には今回の震災の最終報告会を行います。

開催場所・時間が決まり次第HPにてご案内いたしますので、皆さま是非お集まりください。



(4/19 中間報告会の様子)

◆サステナビリティ学教育プログラムの開始◆

今年度も5月より、サステナビリティ学教育プログラムが始まります。

他大学とオンラインで結んでの講義や学外に出るの演習など、盛りだくさんのプログラムになっております。一緒に学んでいきましょう！



5月に始まる講義は以下の通りです。

○人間システム基礎論Ⅱ 5月10日(火)より
(代表・木村競先生)

○持続社会システム基礎論Ⅱ 5月13日(金)より
(代表・原口弥生先生)

○地球環境システム論Ⅰ 5月23日(月)より
(代表・三村信男先生)

9月に行われる国際・国内実践教育演習のガイダンスも5月25日(水)に行われます。

受講を考えている方は、忘れずに参加してください。

2011年度 ICAS カレンダー

4月	H23年度サステナプログラム履修登録開始 「茨城大学環境マネジメント計画」開始 4/4 第一回 ICAS セミナー 4/19 茨城大学震災調査団中間報告会 4/18 第二回 ICAS セミナー	10月	10/17-23 ブーケット・ラチャパット大学訪問団来訪 茨城県3者連携講演会 ベトナムWS: Dr.Trinh Van 来日
5月	5/16 第三回 ICAS セミナー 5/23 第四回 ICAS セミナー 5/25 国際、国内実践教育演習ガイダンス	11月	11/17-19 UN-CECAR シンポ(茨大) 第4回運営委員会 学内ヒアリング
6月	6/4, 11, 18 サステナビリティ学入門 6/10 SSC 理事会(北大) 6/11 SSC シンポ(北大) 第1回運営委員会 ICAS年報2011発行	12月	
7月	7/9, 16, 17 サステナ最前線講義 第2回運営委員会	1月	第5回運営委員会
8月	国際、国内実践教育演習ガイダンス	2月	
9月	9/3-11 国際実践教育演習(ブーケット) 9/28-31 国内実践教育演習(大洗) 第3回運営委員会 9/15-16 土木学会地球環境シンポジウム (茨城大学水戸キャンパス)	3月	ICAS 研究交流会 学生サステナフォーラム

*網掛けは ICAS が主催する企画です ICAS の予定に関するお問い合わせは ICAS 本部まで icas@mx.ibaraki.ac.jp

◆ 活動報告 ◆

ICAS 研究報告会

3/10(木)9時半～12時 @水戸キャンパス・遠隔講義室

- ・趣旨説明 三村 ICAS 機関長
- ・各研究部門および特色ある研究
 - 第1部門 小峯秀雄(工学部) 第2部門 成澤才彦(農学部)、吉田貢士(農学部)
 - 第3部門 小柳武和(工学部)、小林久(農学部)
 - 第4部門 伊藤哲司(人文学部)、蓮井誠一郎(人文学部)
- ・独自研究
 - 岡山毅(農学部)、浅木直美(農学部)、木村美智子(教育学部)、中川光弘(農学部)
- ・環境省 S8-3 研究 安原一哉(ICAS)
- ・全体討論

2010年度はICASにとって第2期の初年度であり、今後を占う上で大事な1年でした。ICAS 研究報告会は、2010年度の各研究の成果を発表し、関係者での意見交換を目的として行われました。

本報告会の特徴は、従来からの4研究部門の部門長による成果報告だけでなく、各部門の特色ある研究および独自研究の成果を報告して頂いたことにあります。農学部からは吉田先生のメコン川における窒素負荷排出量の推定、岡山先生の植物工場、浅木先生の気温と水稻の育成パターン、人文学部から蓮井先生の気候安全保障、教育学部の木村先生の水環境と環境教育に関して報告がありました。

残念ながら、これらの研究はこれまで ICAS 全体の研究報告会ではあまり発表される機会がありませんでした。しかしながら、本報告会を通じて、ICAS の構成員の各研究には接点があり、手法の共有、現場の共有など、連携出来る可能性があることが改めて認識されました。

今後も定期的に研究報告会を行って、気候変動への対応策や持続可能な社会の構築に向けた研究教育活動を推進していきます(田村)。



◆ メンバー紹介 ◆

田林 雄

4月からICASの研究員として新たに加わりました。

3月は若葉が芽吹き、虫や鳥が動き始めるよい季節ですが、今年は全く違うものになってしまいました。3月11日は前任の研究所で分析中だったのですが、突然、数百キロもある分析機械がカタカタと歩き出し、あわてて非常用のドアを突き破って外に出ました。地面はゴムのように波うち、ビルは棒高跳びの棒のようにめいっばいしていました。地震後も研究棟の水道、下水道、電気、機械のチェックで仕事がひと段落したのは3月31日の夜中。そのまま引越しの荷物を車に詰め込んで、荷物を抱えたまま4月1日、茨城大へ。初日から震災の調査検討会が始まりました。ものすごい速さで調査と報告書の作成が進んでいます。

震災の調査にはICASが中心になって全学部で進めていますが、機動的に迅速に、総合的な事を進めなくてはいけないときにこの組織はとても効果的であると、今、感じています。

これまで水質や物質循環を化学分析と空間解析を用いて研究してきました。ICASの活動に少しでも貢献できるようがんばりたいと思います。よろしく願いいたします。



*筆者左から二番目

◆活動報告◆

学生サステナフォーラム

3/9(水)10時～15時 @茨城大学農学部こぶし会館・体育館

- ☆第12回サステナビリティーフォーラム (ルイジアナ州立大学 G.M. King 教授講演会)
- ☆第4回学生サステナフォーラム@茨城大学農学部

例年水戸キャンパスで行われておりましたが、今年は阿見キャンパスでの開催となり、80名を超える参加をいただきました。

Thinking for Sustainable Agriculture and Sustainability と題しての講演会では、King 先生の発表に学生達は皆熱心に耳を傾けていました。

午後から昨年阿見キャンパスに新しく建設された体育館に場所を移し、学生サステナフォーラム。学部生・大学院生による研究ポスター発表では、学部や研究科の枠を越えて普段の研究の成果を異分野の学生同士で報告・議論が行われました。

軽食をとりながらのフリーディスカッションでは、とても和やかな雰囲気の中、最優秀ポスター賞1名と優秀ポスター賞4名の受賞を祝いました。

春から新しい環境での出発となる皆さんにとって、ここでの経験を大いに生かして欲しいと思いました。(安田)



◆島田コーディネーターのちょこっとコラム◆

『緑のカーテン』でピークカットをしましょう！！

東日本大震災では、県内の多くの住宅で、屋根瓦やブロック塀などが破損しました。そんな中で、あまり大きな騒ぎにはなっていませんが、空調用のエアコンなども室外機が傾いていたり、壁からはずれてしまうなどの被害も多いことと思います。



そこで、ぜひ今年こそ挑戦して頂きたいのが『緑のカーテン』です。昨年、ICASでも挑戦しましたが、夏は涼しく、緑と花とゴーヤやへちま、あるいはブドウなど実りを多く楽しめる手法です。緑のカーテンの準備をするには、これから約1か月程の期間が苗の植え時です！！

電力不足による大規模停電を避けるため夏季日中のピーク時の電力利用を減らすピークカットが提唱されています。夏場のエアコン使用を低減させてくれる日除けが効果的です。『緑のカーテン』、『ヨシズ』や『スタレ』といった家庭、事務所、工場などどこでもできる身近な手法です。

これまで、『緑のカーテン』といえば、“エコ”の代名詞の一つでしたが、これからは災害にも強い、レジリエンス(回復力・復興力)も兼ね備えた手法として新たに位置付けてみてはいかがでしょうか？

ところで『緑のカーテン』、緊急避難用の通路を塞ぐことには気をつけましょう！窓辺からできるだけ離して空間を広くとると涼しさもアップし、避難口を塞ぐことを避けられます。まだまだ、大きな余震もあるかもしれません。地震にも暑さにも停電にも負けないこの夏にしていきましょう！！ (島田)

◆報告◆

これまで皆様にお楽しみ頂いておりました季刊誌『サステナ』が4月(18号)よりWEB版となります。こちらのウェブサイトよりPDF版をダウンロードしてご覧頂けます。
<http://www.ir3s.u-tokyo.ac.jp/sustaina>



年6回(偶数月の終わり)の発行となり、より多くの情報をお伝えしたいと思いますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

また、バックナンバーの在庫がある号もございますので、ご希望の方は ICAS 事務局までお問い合わせ下さい。

Editor's Note



新年度になり、ICASにも新しいメンバーが入りました。被災地となった茨城大から、ICASから何が出来るのか皆で考え続けていきたいと思っています。

今年度もどうぞ宜しくお願いいたします。 H・A